



港

めぐり ～いわきの絵はがきから～

はじめに

明治時代から昭和時代にかけて、絵はがきは、新聞と並ぶ重要な情報伝達媒体として機能していました。いわき市においても、地域の名所や旧跡、町や村の様子、産業やイベントのPRなど、多種多様な絵はがきが発行され、それぞれの時代の様子を伝える貴重な地域資料となっています。

本常設展では、当館所蔵資料を中心に、「港」に関する絵はがきを取り上げ、当時の風景を知るきっかけとすることを目的に開催します。特に枚数の多い「四倉漁港」「江名港」「小名浜港」を中心に、いわきの潮の香りを感じていただければ幸いです。

いわき市立いわき総合図書館

絵はがき

裏面に写真や絵などが印刷されたはがき。

明治8(1875)年にドイツで発行され、日本に伝わった。

いわき地方には、明治30(1897)年に日本鉄道磐城線(現JR常磐線)が開通し、絵はがきが流通する過程で東京から伝わり、流行した。

港湾こうわん

船の停泊、貨物の積み下ろし、人の乗降に必要な設備を揃えた水域と施設。

地方港湾

重要港湾以外の港湾で、おおむね地方の利害に関わるもの。

重要港湾

港湾法に基づく港湾の種類の一つ。国の利害に重大な関係を有する港湾。

避難港

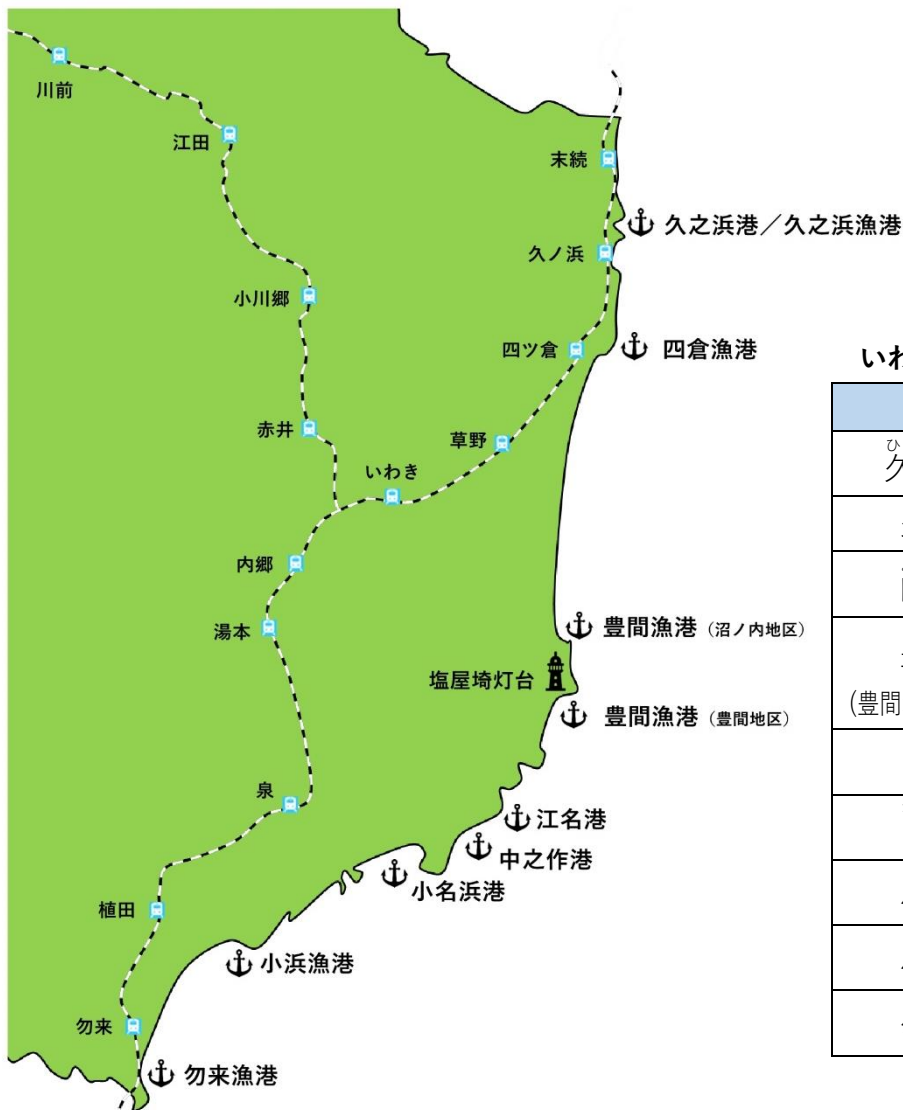
悪天候の際、小型の船舶が避難するために停泊することを目的とした港。

県費支弁港しべん

県が工費を出して整備する港。

船溜まりふなだ

小型の船舶を安全に係留するための、防波堤などで囲まれた水面のこと。



いわき市の漁港（令和7年7月現在）

名称	種別
ひさのはま 久之浜漁港	第2種漁港
久之浜港	避難港
よつくら 四倉漁港	第2種漁港
とよま 豊間漁港 (豊間地区・沼ノ内地区)	第2種漁港
えな 江名港	地方港湾
なかのさく 中之作港	地方港湾
おなはま 小名浜港	重要港湾
おばま 小浜漁港	第1種漁港
なこそ 勿来漁港	第2種漁港

漁港

漁船の停泊・係留や、出漁準備、獲った魚介類の陸揚げなどを行う設備を持つ港。利用のされ方から、4種類に分類される。

種類	概要	管理
第1種漁港	主に地元の漁船が利用する漁港	市町村
第2種漁港	利用範囲が第1種漁港より広く、第3種漁港に属さない漁港	都道府県
第3種漁港	全国の漁港に広く利用される漁港	都道府県
第4種漁港	漁業開発または悪天候の際の漁港の避難などに利用される漁港	都道府県

商港

商船や貿易船が出入りする、貿易の拠点となる港。

四倉漁港

四倉漁港は、昔から小型漁船による漁業の盛んな場所でした。

整備事業の歴史は古く、大正 5 (1916) 年に県の補助金を得て第 1 船溜まりの建設に着手したことから始まります。この工事で漁船の出入りや地方船の入港数が増え、また、周辺道路や鉄道など陸上交通の面も充実していたことから、港の将来には期待が寄せられました。

昭和 5 (1930) 年には県費支弁港に編入され、昭和 7 (1932) 年から国庫補助で本格的な修築工事が始まります。この工事で港の基本的な施設が整えられ、その後も漁業環境や周辺道路の変化に合わせて第 2・第 3 船溜まりなどの整備が行われました。

現在は、第 2 種漁港として沿岸漁業を中心としています。また、国道 6 号に隣接する用地内には「道の駅よつくら港」があり、賑わいをみせています。

絵はがきには、昭和時代のイワシの大漁の様子や、港に停泊する漁船など、当時の風景が収められています。



「観光海のよつくら」絵はがき袋 (昭和時代)



「観光海のよつくら」四倉漁港の賑い (昭和時代)



「磐城時報」昭和 7 (1932) 年 9 月 21 日 1 面
四倉漁港起工式の記事。式典、特別宴会、
提灯行列などで、町は終日賑わいました。



「常磐線四倉」鰯 (イワシ) の大漁 (昭和 10 年頃)

昭和 2 (1927) 年から昭和 10 年代末期
は、イワシ漁が活況を呈していました。

江名港

江名港は、地形的に恵まれた船溜まりを持っていたため、昔から小型漁船の基地として活用されてきました。

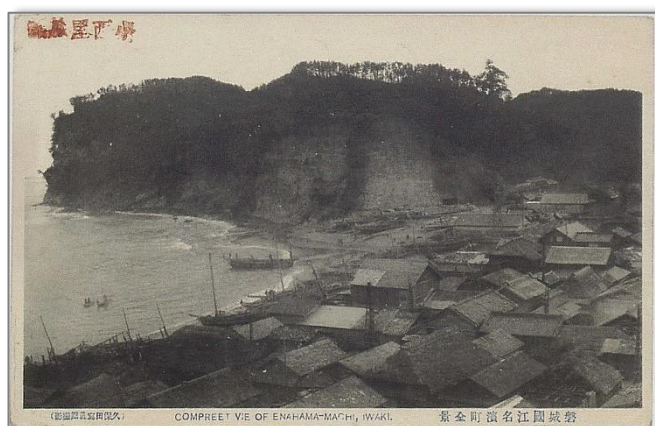
大正 10 (1921) 年、漁業の近代化に伴い港湾が手狭となったことから修築工事に着手。護岸や埋め立てなどを行ったこの工事は、昭和 3 (1928) 年に完了しました。

昭和 11 (1936) 年には県費支弁港に編入、昭和 15 (1940) 年には地方港湾に指定されました。(地方港湾については「港湾法」の改正を受け、昭和 23 (1948) 年に再指定。)

戦後は漁業が沿岸から遠洋へと転換し、船も更に大型化したため、これらに対応した防波堤や船揚場、冷凍冷蔵施設などの施設の整備が行われました。

現在は、沿岸漁業を中心として機能しています。

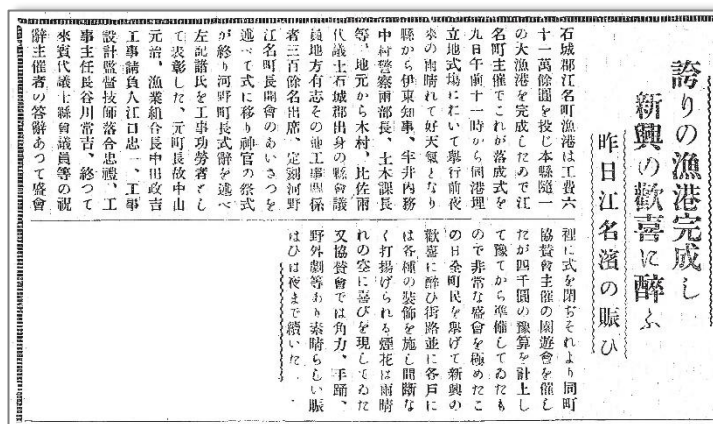
絵はがきには、各時代の江名港の全景や、多くの漁船が港に停泊する様子などが収められています。



「江名濱名所」磐城國江名濱町全景（明治時代）



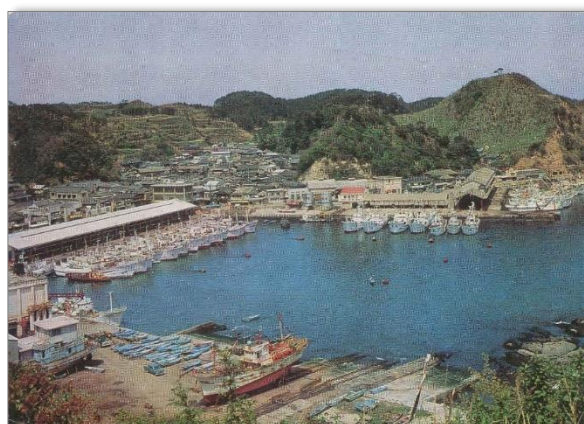
江名漁港（昭和時代初期）



「常磐毎日新聞」昭和 3 (1928) 年 5 月 11 日 2 面

江名漁港落成式の記事。

全町民が漁港の完成を喜び、角力、手踊、野外劇などの余興も行われました。



「いわき」江名港全景（昭和 30 年代）

江之網港

絵はがきの中には、現在は存在しない港の姿も見ることができます。

その一つが、四倉と久之浜の間にあった「江之網港^{えのあみ}」です。

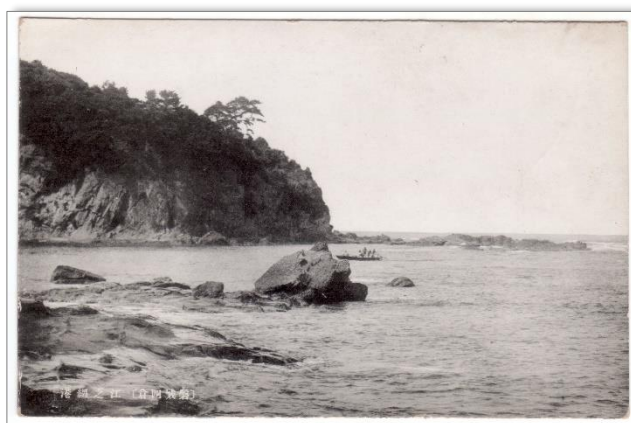
広さは東西に 280m、南北に 220m に過ぎませんが、港が整備されていない時代には、天然の良港として活用されていました。漁業はもちろん、江戸時代には年貢米の積出し港としても使われています。

しかし、周辺の四倉や久之浜とは異なり、江之網港が近代漁港となるには条件が揃っていませんでした。後背地が狭く、入江には磯が広がっており、漁船の大型化に対応できなかったためです。海岸の近くを国道 6 号が走ることになり、入江の上に明神橋がかかった昭和 25 (1950) 年頃を最後に、江之網港は港としての使命を終えています。

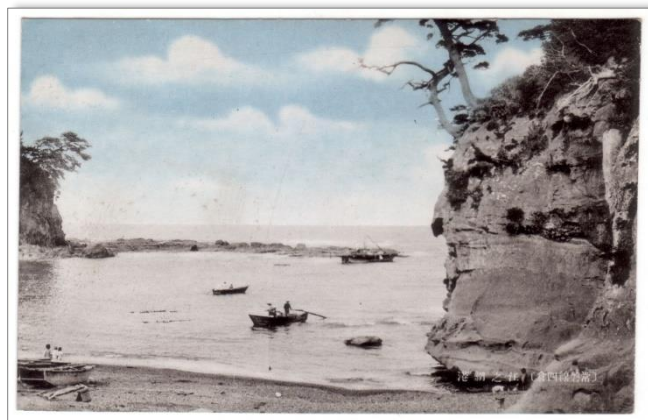
絵はがきの中には、切り立った崖と漁船など、かつての風景が残されています。



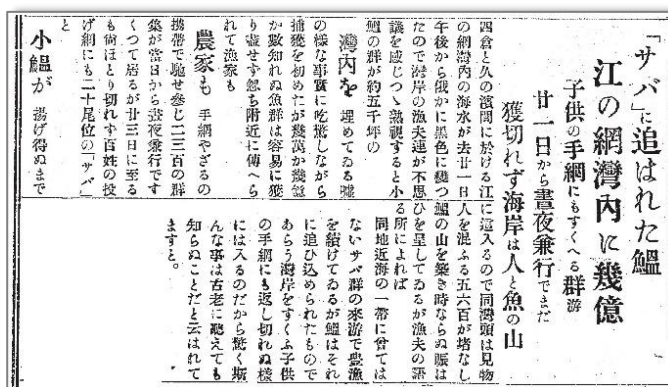
「磐城四倉」江之網港（大正時代）



「磐城四倉」江之網港（昭和 10 年頃）



「常磐線四倉」江之網港（昭和 10 年頃）



「新しいわき」昭和 5 (1930) 年 7 月 24 日 1 面
江之網湾内に鰯 (イワシ) の群れが現れたことを報じる記事。「当日 (廿一日) から昼夜兼行ですくって居るが廿三日に至るも尚ほとり切れず」と書かれるほどの大群で、海岸には見物人を含め多くの人が集まりました。

小名浜港

小名浜港は、江戸時代、東北地方から江戸へ年貢米の積出しが行われたことや、物資を運ぶ「東廻り海運」の港に指定されたことで、港の基礎を築きました。

明治時代になると、常磐炭田から産出された石炭を運ぶ基地の役割も果たすようになります。しかし、明治 30 (1897) 年に上野一平 (現いわき) 間で日本鉄道磐城線 (現 JR 常磐線) が開通すると、石炭の輸送は船から鉄道へと移行し、港はさびれていきました。しかし、鉄道運賃が次第に上昇し、船賃との差がなくなったことや、船舶の大型化などで鉄道輸送と対抗できるようになったことから、地元住民からは将来の発展のために商港整備を求める声が強まりました。

大正 7 (1918) 年、東京一塩釜 (宮城県) 間の避難港という名目で漁港の修築工事が行われました。大正 12 (1923) 年まで続いたこの工事では、護岸・防波堤・物揚場などが完成し、港づくりの第一歩となりました。

昭和時代に入ると、小名浜港は重要港湾の指定を受け、商港としての整備が進められていきます。その後、昭和 31 (1956) 年に関税法による開港指定を受け、外国との貿易のために開放された港として認められたことなどをきっかけに、国際貿易港として発展していきました。

現在は、物流や東日本地域のエネルギー供給、水産業、地域振興の拠点として重要な役割を担っています。

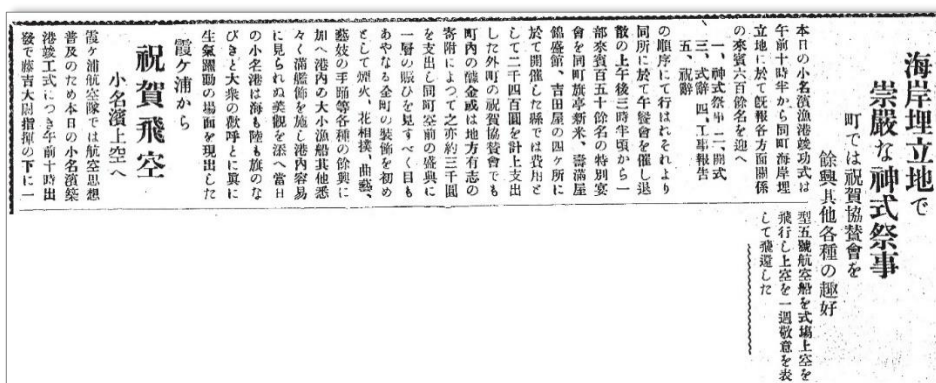
絵はがきには、大正・昭和時代の築港の様子や捕鯨の一場面など、小名浜港の様々な風景が収められています。



「小名浜」絵はがき袋 (昭和 20 年代)



「小名浜」小名浜港内漁船碇泊の実況 (昭和 20 年代)



「常磐毎日新聞」
大正 15 (1926) 年
10 月 28 日 2 面

小名浜港竣工式の記事。
式典等の他、霞ヶ浦航空
隊から航空船 (飛行船) が
飛来し、港の完成を祝福
しました。



「小名浜みやげ」築港全景（大正時代）



「小名浜風景」築港全景（昭和時代初期）

埋立地完了後の築港には、漁業組合・製氷会社・捕鯨会社などの建物が並びました。



「小名浜風景」捕鯨の引揚実況（昭和時代初期）



「小名浜風景」小名浜港築港略図（昭和時代初期）

左に防波堤、防砂堤、岸壁などの商港計画が記されています。



「いわき」小名浜漁港（昭和30年代）



◆◆◆参考資料◆◆◆

『いわき市史』	いわき市史編さん委員会	いわき市		K/210.1-1/イ
『いわき発・歳月からの伝言』	おやけこういち	歴史春秋出版		K/210.1-1/オ
『四倉の歴史と伝説』	本多徳次	四倉郷土史資料集成刊行会	1986	K/210.1-1/ホ
『絵はがきの中の「いわき」』	いわき市立いわき総合図書館	いわき未来づくりセンター	2009	K/210.6-1/イ
『懐郷無限』	斎藤伊知郎	田久孝翁	1978	K/210.6-1/サ
『写真集 明治大正昭和 平』	斎藤伊知郎	国書刊行会	1980	K/210.6-1/タ
『写真集 明治大正昭和 小名浜・江名・泉・渡辺』	高萩精玄	国書刊行会	1981	K/210.6-1/オ
『写真集 明治大正昭和 勿来』	零石太郎	国書刊行会	1980	K/210.6-1/ナ
『写真でつづる実伝・いわきの漁民』	草野日出雄	はましん企画	1978	K/384/ク
『江名漁業史 昭和37年版』	江名町漁業協同組合		1962	K/662/エ
『福島のみなと百科』	国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所		2008	K/683/コ

地域資料パスファインダー 「小名浜港」に関する資料の探し方

地域資料パスファインダー 「写真でみる懐かしのいわき」に関する資料の探し方

「いわきの今むがし」 <https://www.city.iwaki.lg.jp/www/genre/1503014401450/index.html>
 (いわき市ホームページ) (トップページ>市政情報>市の紹介>いわきの今むがし)

※展示資料(絵はがき・新聞)の一部及び「パスファインダー」は、図書館ホームページでも公開しています。

「いわき市立図書館 ホームページ」 <https://library.city.iwaki.fukushima.jp/>



協力：小宅 幸一 氏（地域歴史研究者）

令和7(2025)年7月7日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

令和7年度 前期いわき資料常設展「港めぐり～いわきの絵はがきから～」

■会期 令和7(2025)年7月1日(火)-10月26日(日)

■会場 いわき総合図書館5階 地域資料展示コーナー

